

今月の ひとこと

みなさま

遅ればせながら新年おめでとうございます。
本年がみなさまにとってすばらしい年となるように願っています。

みなさまのご支援のおかげでI-OWAおよびクラブ・インベストライフも新しい年を迎えることができました。
どうぞ本年もよろしく願いいたします。

今年は何といっても確定拠出年金が本格的に拡大することになるだろうと思います。それに伴ってこれまで漠然としていた不安感が、具体的な解決策の実行へと進化していくことになるでしょう。つまり、長期的な資産運用に関する知識、実践方法が必要とされる年になるだろうと思います。インベストライフもそこに焦点を当てて企画を考えていきたいと考えています。

まず、今月は大江英樹さんの登場です。確定拠出年金に興味を持った個人がまず第一歩、何をすればよいのか、どこに行けば何を聞けばよいのか、その最も基本的な点からお話を伺いました。まったく投資に縁のなかった方にぜひ、お読みいただきたいと思います。

~~~~~

今年7月に東京で開催して大好評をいただいた「資産運用の四賢人セミナー」が2017年1月21日（土）に大阪で開催されます。東京以外で初めての催しです。一日で本当に大切なことをその道のベテランから学ぶことができます！2017年の資産運用を考える上でとても参考になる内容です。

テーマは「"惑わされない"資産運用」

馬淵治好： 情報に惑わされない 岡本和久： 市場に惑わされない  
竹川美奈子： 商品に惑わされない 大江英樹： 自分に惑わされない  
全員：トークライブ

朝10時から夕方4時半までの終日イベント！参加費はお弁当付きで1万円です。終了後は希望者による懇親会もあります。関西エリアのみならず、投資戦略をお考えの全国のみなさん、ぜひどうぞお越しください！残席わずかです。お申込みはこくちーずプロからお早目に。

<http://www.kokuchpro.com/event/e9f0321c8878bc747b799389cde6ab7a/>

~~~~~

FACEBOOK上でクラブ・インベストライフの仲間が活発な議論をしています。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください（2017年1月12日現在で参加者数は3411名です）

[今月号の記事をすべてダウンロードする](#)

対談：確定拠出年金、いよいよ本格始動を迎えて

対談： 大江 英樹氏、 岡本 和久 レポーター： 佐藤 安彦



「確定拠出年金を始めてみたいけど、どこで何を聞いたらできるのかわからない」、そんな疑問をお持ちの方のためにミスター確定拠出年金、大江英樹さんと第一歩から運用の実際までを語り合いました。「将来が不安、でも、投資って難しそう」という方、必読です。

[読んでみる](#)

クラブ・インベストライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することも一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズ のメール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、
クラブインベストライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要
です。リクエストボタンを押して
入会申し込みをしてください。

[Facebookへはこちらをクリック](#)

Twitter上のグループ
クラブインベストライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlifeさんをフォロー](#)

I-OWA マンスリー・セミナー講演より PE（プライベート・エクイティ）投資、日本と経済と私

講演： 川本 明氏 レポーター： 赤堀 薫里



官僚生活30年を経て川本さんが感じる日本経済・社会の強みと弱み、そして、プライベートエクイティ（PE）ファンドを立ち上げ、そのビジネスにかけるとの夢。PEの基本についてわかりやすくお話をいただきました。

[読んでみる](#)

バックナンバー | 一覧

- [2016年12月15日発行 Vol.168](#)
- [2016年11月15日発行 Vol.167](#)
- [2016年10月17日発行 Vol.166](#)
- [2016年09月10日発行 Vol.165](#)
- [2016年08月15日発行 Vol.164](#)
- [2016年07月15日発行 Vol.163](#)
- [2016年06月15日発行 Vol.162](#)

I-OWA マンスリー・セミナー講演より 日本にとってPE（プライベート・エクイティ）の拡大が必要な理由

座談会：川本 明氏、参加者のみなさま レポーター：赤堀 薫里



銀行と貸出先との関係としては、銀行は貸出先が非常に多いため、数字で管理しているという事を銀行の方からよく聞きます。我々は50%以上の持主として入るので、管理の度合いが違う。融資と投資という立場も違う。銀行の関与の仕方で見ると、会社そのものの中で変えるということは、それはそれで大きなリスクです。例えば、人事でいまの社長が後継者に社長職を譲った方がいいと心の中で思っているけどもどこまでそれを言えるのか。（川本氏）

[読んでみる](#)

ウェブ化以前のバックナンバー

2012年12月までに発行されたインベストラ이프をご購入いただけます。

[購入・詳細](#)

中国がわかるシリーズ36 南宋と金の講和

ライフネット生命保険株式会社 代表取締役会長兼CEO、出口 治明氏

南宋と金の間に和議が成立しました。そのころ、日本でも平清盛が政権を取り日本と大陸の間での交流が盛んとなりました。

[読んでみる](#)

知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

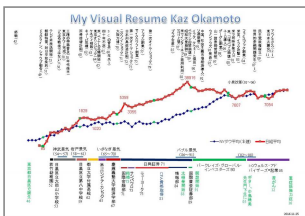
トリビア研究家 末崎 孝幸

◆コックピット ◆タイタニック号で生き残った日本人 ◆音位転換について ◆象牙の塔 ◆白眉 ◆几帳面 (の語源)

[読んでみる](#)

I-OWA マンスリー・セミナー講演より 感謝感謝の70年、そして、お礼奉公のこれから

岡本 和久



私は昨年12月に70歳になり古希を迎えました。これまでの70年を振り返り、そして残された人生をどのように生きたいかをお話しました。12月のマンスリー・セミナーでの講演内容です。これまでの70年を6分でご覧いただける動画もあります。

[読んでみる](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

2016年通年では4資産型（国内外の株式・債券均等配分）が1.86%、2資産型（全世界株式・全世界債券均等配分）が2.01%というパフォーマンスでした。

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

純資産の大きさをトップ20の日本の投資信託のパフォーマンス比較です。

[読んでみる](#)

I-OWAたより

岡本和久のI-OWA日記

★瞑想は資産運用耐久力アップのための強い味方 ★歌舞伎を追っかけ大阪へ ★新年おめでとうございます ★第135回マンズリー・セミナー 兼 岡本和久 古感謝祭を開催しました ★ハッピー・マネー@ソングの歌入り、カラオケ・バージョンがDVD発売 ★ショートターミズムとゼロ金利

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

1月21日(土) 10:00~16:30 大阪「ミッション4」Presents 1日で本当に大切なことが学べる特別セミナー、「“惑わされない”資産運用」プログラム：【セッション1】 10:00~11:00 「情報に惑わされない」 馬淵 治好【セッション2】 11:05~12:05 「市場に惑わされない」 岡本 和久 -ランチタイム- 【セッション3】 13:05~14:05 「商品に惑わされない」 竹川 美奈子【セッション4】 14:10~15:10 「自分に惑わされない」 大江 英樹★ 5:30~16:30 フリートークセッション 会場：毎日インテシオ4階F会議室 大阪市北区梅田3丁目4番5号 参加費：1万円(お弁当付き)、セミナー終了、希望者による後懇親会があります(参加費：2000円) お申込み：こくちーずプロ：
<http://www.kokuchpro.com/event/e9f0321c8878bc747b799389cde6ab7a/>

+++++

1月28日(土) 13:30~15:30 東京 マハリシ総合教育研究所主催講演会 「瞑想と投資でゆたかな人生を生きる」講演：岡本和久CFA(投資教育家、ファイナンシャル・ヒーラー)、小林 拓(TM教師) 会場名：マハリシ総合教育研究所 有楽町オフィス(JR有楽町駅徒歩1分) 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル11階 Portal Point内 対象者：どなたでも(ぜひ、まだ超越瞑想を受講されていないご友人もお誘い合わせの上ご参加ください) 参加費：2,000円 定員：24名 お申込：
<https://goo.gl/Xu3pqG> QRコード → お問い合わせ：kobayashitaku@maharishi.or.jp 03-6272-9398 (小林拓)

+++++

2月19日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンズリー・セミナー(137回) 会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) 「日本証券市場：黎明期」(岡本 和久) 「個人投資家のためのエンゲージメント(仮題)」(明治大学商学部教授 三和 裕美子氏) フリー・ディスカッション&懇談会 スポット受講料： 教室での受講は10000円+税 予約必須 動画での受講は5000円+税

+++++

3月19日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンズリー・2セミナー(138回) 会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) 「日本証券市場：明治~大正」(岡本 和久) 「歴史的な視点から現在の金利、金融の状態をどう評価するか」(東京海上アセットマネジメント・運用戦略部長 平山 賢一氏) フリー・ディスカッション&懇談会 スポット受講料： 教室での受講は10000円+税 予約必須 動画での受講は5000円+税

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

Page Top



対談：確定拠出年金、いよいよ本格始動を迎えて

対談：大江 英樹氏、岡本 和久
レポーター：佐藤 安彦

岡本| この間、母親の介護をしている人と話をしていて気づいたことが一つありました。その人が言うには、色々と行政も手を差し伸べてくれてはいるという話を耳にするんだけど、実際に自分がどこにコンタクトを取ったらよいか分らなかったの、すごく苦労していたと言ってますね。色々と調べているうちに、ようやく、それが分かったので、そこであれこれと話を聞くことができ、今は様々なサービスを受けられるようになったということでした。また、先日都内で1時間ほど資産運用のセミナーをしたんですが、話し終えた後、最初の質問が、「それで私は何をやったら良いですか？」でした(笑)。つまり、やっぱり入り口の所が問題なんだなと思いました。例えば、確定拠出年金もメリットが多いという話を聞くけれど、どこの誰にコンタクトしたらよいか分らない人がかなりいるんだと思いますね。

大江| そうですね。かなり多いと思います。確定拠出年金の場合ですが、対面型の方がとっつきやすいでしょう。現時点では三井住友銀行がナンバーワンだと思います。断トツで良いと思います。その理由は2つあります。1つ目は、商品の数がそれほど多くない事です。楽天証券やSBI証券は手数料が安い商品もありますが、同じくらい高い商品もラインナップされています。例えばSBI証券の場合ですが、日本株パッシブファンドで手数料が0.21%から0.86%までありますので、詳しくない方は、高い方を選んでしまう事があり得ますね。その点、三井住友銀行は、アクティブファンドは手数料が高いものもありますが、パッシブファンドはどれも手数料が低いのでどれを買っても問題ないと思います。元々商品数も少ないので選びやすいと思います。2つ目は、岡本さんがおっしゃっていた、「どうしたら良いの?」という方のニーズにしっかりと応えています。というのは、店頭で相談を受けられるんですね。これは結構すごいことで、店頭で相談できる金融機関は3つしかなくて、三井住友銀行と新潟の第四銀行、りそな銀行の一部の店舗です。ネット証券は店舗がありませんし、店舗を持っている野村證券や日本生命の支店に行って確定拠出年金の相談をしようとしても、どこも受け取れないんです



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ね。コールセンターはどこの会社でも話は聞いてはくれますけど、やっぱり不安に感じる人が多いんですよね。

岡本| まあ、対応を準備しているところはあるのでしょうけれどね。例えばですけど、家庭の主婦がこれから自分達も加入できるのだから、まずは近くの三井住友銀行に行って話を聞いてみようと思ったとして、いざ行ってどんな事に気を付けたらよいと思いますか？

大江| はい、気を付けるポイントは2つあります。1つ目は、三井住友銀行の場合、提供しているメニューそのものは良いものだと思います。ですが、その個人に対して最適なものは別の話ですね。これはどこに行って相談しても同じ事ですが、三井住友銀行に行って相談した場合は、三井住友銀行が出しているメニューの中でしか考えてくれない、つまり他の会社のメニューの事は教えてくれないので、それに気を付けることですね。なので、他と色々比較してみたい場合にはちょっと違ってくると思います。

2つ目は、手数料も安いし店頭でも相談に乗ってくれる、そんな手厚いサービスをなぜやっているのかという事を考えたときに、銀行側の狙いとしてそれ以外の商品も買って貰いたいと思

っていることは考えられますよね。そこに気を付けていただいて、もしサービスを受けるのであれば、個人型確定拠出年金だけに絞った方が良くと思っています。

これに関連した話で、最近フィナンシャル・プランナー(FP)の一部の人たちに、こういったニーズに応えようとしている動きが見られます。例えば、私の知り合いの女性FP2名が「みらい女性倶楽部」という名前で活動しています。彼女達は、東京と茨城県水戸市で毎月、主婦、自営業などの女性の方を対象に平日や土曜日に確定拠出年金のセミナーをやっています。そのセミナーで興味を持ってくれた人には、例えば、どこの運営管理機関が良いかのアドバイスをします。次にそこから運営管理機関を決めて資料を取り寄せる。そこで加入書類の書き方が分からなければそれを指導する。その後、個別具体的商品まで推奨することはできないのだけれど、少なくとも標準的アセットクラスの中でのポートフォリオの資産配分のアドバイスや相談にのることはできる。そういったことなどをやってコンサルティング費用として何万円かを戴くという彼女たちみたいなことをやっている人達が他にも出てきています。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本| なるほど。初めてパソコンを買った人に対して、パソコンの設定をしてあげながら色々なアドバイスしてくれるような、そんなイメージですね。

大江| そうです、そうです。これって意外とニーズがあると思うんですよね。というのは、私は企業型の確定拠出年金の仕事をやっていたので、例えば結婚して会社を辞めるという人達から「企業型確定拠出年金って会社辞めたらどうなるんですか」って聞かれるんですよね。「個人型確定拠出年金に移るけど、移し方についての詳しいことは、各々コールセンターに電話してくれ」って答えていたんですけれどね。でも、やっぱりそう言われた人は不安だったと思うんですよね。「お金ちゃんと払うからしっかりと対面で教えてくれよ」って思っている人ってものすごく多かったんですよね。ですから、FPが個人相手にこういったサービスをやれば結構ビジネスとして成り立つとは思うんですよね。

岡本| 確かにニーズは多そうですね。実は投資のリテラシーが必要だとかいう前の段階の方が、遥かにハードルが高いんですよね。そのハードルを乗り越えてしまえば経験を積みながら段々と覚えていく事もありますからね。

大江| それと、FPだからできる事がもうひとつあって、個人型確定拠出年金の場合、普通のサラリーマンや主婦だったら月額 23,000 円、公務員や企業年金のある会社に勤務するサラリーマンは月額 12,000 円が最大の掛け金ですね。投資の話として 23,000 円って割合、軽く言いますが、実際にはサラリーマンが生活をしている中で、新たにこの額を毎月捻出するのってかなり大変なことなんですよね。

岡本| それはそうですね。

大江| 実際には 12,000 円でも大変だと思います。なので、今の生活費の中で余分な部分は無いですか、無駄な保険に入っていないませんか、といったアドバイスなどを FP の目線や立場でやっていくこともできるのだと思うんですよね。

岡本| 節約しながら確定拠出年金の資金を捻出することができそうですね。

大江| 原資の確保についてもしっかりと考えてくれる、痒いところに手が届くような、こういう事をしっかりとやる真面目な FP が増えていくといいなと考えています。今は、大手金融機関はそんな事やりませんから、個人の FP が活躍できる分野だと思いますね。

岡本| たしかに大手金融機関はなかなかそこには入っていけないでしょうね。だけど、信金や地銀は、こういうところに活路を持って、優位性を出してくるかも知れませんね。個人の FP がやっているケースはまだまだ少ないと思いますが、それはどうしてですか？



長期投資仲間通信「インベストライフ」

大江| 個人の FP は、まだ個人型確定拠出年金に対する勉強が足りないと思います。これからは、大きな話だけでなく、本当に細かい部分に分かっているかが問われてくるようになるのだと思います。

岡本| 確定拠出年金が制度として広がっていくには、これまで話してきたこと以外にどのような取り組みが必要だと思っていますか？

大江| そうですね。これは非常に言いづらいことなのですが、金融機関がもう少し儲かるような仕組みにしてあげないとダメだと思いますね。そうでないと長続きしないですね。ある金融系週刊誌に、厚労省が iDeCo(イデコ、確定拠出年金の愛称)普及の協賛金として、各運営管理機関に対して 5,000 万円ずつ要請したなんて記事が出ていましたが、それはいくらなんでもひどすぎると思いますね。厚労省が普及推進のために広告宣伝を打つのは良いと思います。それはそれで良いのですが、単に宣伝をするだけでは意味がなくて、それによって参加している金融機関にメリットが生じるようなやり方をしてあげないと、どこも動かないと思うんですよね。これだけ大きな規模の制度を拡大するには厚労省だけでできるはずがないんですから、実際に現場で働く営業マンを抱える金融機関が動いてくれない限りどうしようもない。金融機関に対してももう少しインセンティブを与えるようなやり方をやってほしいですね。

岡本| なるほど。とは言え一方で、投資の日とか、大きな、いかにも金のかかりそうな大々的なイベントもあって、金融機関は儲かっているんじゃないかと思わせるようなところもありますよね。

大江| そうですね。これからは金融機関も考え方を変えた方が良いと思っています。大抵の金融機関が、個人型確定拠出年金を入り口商品だと考えているんだと思います。言い方は悪いんですが「これさえ取れば 60 歳まで自社との取引が確保できるぞ」、「一旦取り込んでしまえば、あとは時間を掛けて料理すればいいんだ」みたいに考えていたとしたらそれは大間違いで、私はこれ自体で成り立つようなビジネスをしっかりと考えていかなければならないと思っています。

昔から銀行は農耕型営業で、証券は狩猟型営業だと言われることがあります。そのなかで確定拠出年金も農耕型営業だと言われるんですが、実はそうではなくて林業なんだと思っています。つまり、20 年 30 年という期間にわたって木を育てるんですが、その間に雑草を取ったり、日当たりを良くしたりしながら立派な木に成長させて最終的に伐採する。それでその区画を伐採したら、次はこちらの区画を伐採していくみたいなことをやっていくんですよね。つまり大きな森ができてしまえば、その森だけで永久に回していけるようになるんです



長期投資仲間通信「インベストライフ」

よね。私は確定拠出年金のビジネスってこういうものだと思っているので、その辺りを金融機関の経営者も当局も分かっているよねって言いたいです。

こういう息の長いビジネスですから、手数料の値下げ競争が過激になってしまうと、それぞれの森に養分が行き渡らなくて、結果的に細い木しか育たないようにになってしまう可能性がありますね。ですから、ブロガーの人達が手数料、手数料と言っているのも分かりますが、程々になればよいなと思っています。

岡本| では、これまで確定拠出年金をやっていなかった人達が、入り口をなんとか乗り越えて加入したとして、今度は銀行や証券会社など色々アドバイスをしてくると思いますが、その時の注意点として何かありますか？

大江| 基本的に個別の銘柄を推奨したりすることは、確定拠出年金法で明確に禁止行為とされています。そのことを金融機関もよく分かっているのです、その面ではかなり引き気味だと思います。ですから逆に確定拠出年金以外のサービスのところで商売しようとしてくる可能性はあります。金融機関としては最終的に退職金のことも考えているでしょうから、サービスを受ける側としては、確定拠出年金のお金とそれ以外のお金は一緒にせずきちんと分けて話をするのが大事だと思います。

少し話は変わりますが、確定拠出年金って何のためにやるかと言ったら、老後のためなんですね。私はいつも言っていますが、公的年金の受け取り開始は70歳にするべき思っています。70歳まで繰り下げたら42%増えますからね。65歳までは働けるとして、65歳から70歳までの5年間の生活を支えるのが確定拠出年金の出番なんですね。確定拠出年金を年金払いで受け取る場合、他に年金が無ければ年間120万円までは非課税なんです。例えば65歳の時点で確定拠出年金が600万円あれば、公的年金はまだ貰わずに確定拠出年金の方を年金払いで受け取るなどの制度をうまく活用していけば、70歳からは4割増しの年金で余裕を持った生活ができるかも知れませんね。

確定拠出年金は色々使い勝手が良いんですね。60歳から70歳の間いつ受け取っても良いという非常にフレキシブルな制度なので、これらをうまく使って老後のライフプランに備えて欲しいと思います。

岡本| なるほど。あとはその他の収入の方法をいかに確保するかも大事になってきますね。最近60歳以降の働き方は何か特徴はありますか？

大江| そうですね。今は65歳までは再雇用ですから65歳以上の起業が増えてきています。起業する人達を年代別に分けると60代が32%が一番多いんです。ですから定年後に自分で何かやる人は結構いるんですね。でもこれは頷ける話ではあるんで、60歳からの起業って、基本的には年金や退職金、貯金もそこそこあるでしょうし、もし仕事があれば上手いかわなくても食べていく位はなんとかなるんですね。その上で、自分がやりたい仕事があれば



長期投資仲間通信「インベストライフ」

良いなという気持ちでやってみて、ダメならやめてしまえばよいと考えれば、自分でやってみるのはありですよ。

岡本| そうですね。必ずしも起業という形でなくても、アドバイザーやコンサルタントといったそんな働き方でも良いですよ。ですから、50代になったら人脈も広げるなど定年後のことを頭に置きながらやっておきたいですよ。定年間際になっていきなり友達に聞いてまわるっていうのだとマズイですからね。

大江| そうです。50歳を過ぎたら会社の人間とはなるべく付き合わないようにしたほうが良いですね(笑)。いかに会社以外で自分の能力を評価してくれる人を増やすかが大事になってくるんだと思います。やはり人脈ってこういうことなんだと思うんですよ。会社にいる間は上司や部下は人脈ですけど、辞めた途端にそういうのは無くなってしまいますから、やはり会社以外で能力を認めてもらう事って大事ですね。よく自分の能力の棚卸しとか言いますが、自分ではなかなかできないですよ。やっぱり他人から「あなたはこういうのが向いているね」とか、「あなたはこれが得意ですね」と言われて、それで自分も気が付くこともあるんだと思います。そういう意味でも50代のうちに外の人との付き合いをしっかりと増やしておく必要がありますね。

岡本| よく、人的資産は若い時が一番高く歳を取ると段々減っていくなんて言われていますが、これは自分自身の人的資産のことなんですよ。そう考えると、年齢を重ねていったときは、周りも含めた人的資産を考える必要がありますよね。やはり自分だけでは限界がありますからね。例えば、ある程度の歳になったら自分で法律の勉強しようとするよりは弁護士の友達を作った方が効率は良いですからね(笑)。

大江| 私が思うのは、50代、60代になってきたときは、人のために何かをやるのが大事だと思います。会社で身に付けたものでも何でも良いんです。そういうことをしていると、必ず「またお願いします」と、仕事をお願いされるようになるんですよ。私はよく「貯金はいつか下ろせる。ツケはいつか払わされる」ということを思っているんですけど、人のために何かするのは貯金だと思うんですよ。これはすぐにどうこうなるわけではないけど、いつか自分に返ってくるんだと思うんですよ。逆に、人になにかしてもらったら、これはツケですからどこかで払わなくてはならない。若いうちは、ツケも借金も貯金も何でもありだと思うんですけど、歳をとったら貯金をしてツケは負わないようにすることって大事だと思います。

岡本| 50代くらいからは、周りの人にネットワークを広げておくことも、老後の生活を豊かにするために大事になってきますね。これ、本当に重要なことです。お金の投資もいいけれど、交友関係への投資、つまり自分以外の人への人的資産への投資は極めて重要です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

大江| そうですね。だから、岡本さんがたくさんの人達にこれまで色々なことをしてあげ、アドバイスしているのを見ているんですけど、私は、岡本さんが会社員や経営者としてやってきたこと、やらせて貰った事に対しての恩返しを、みんなにしているんだなと思って見えていますよ。

岡本| そういっていただけると嬉しいです。企業という枠を超えて自分を支えてくれた人材が将来、成功してくれることを願っていますよ。それが自分以外の人材に対する投資という事だと考えています。そして、それがまた自分に返ってくるんですよ。まさに投資のリターンですね。人に喜んで貰えるのは嬉しいですからね。

大江| そうですね。人に喜んで貰えるって本当に嬉しいことですよ。私が先月に出した本の中で「幸せはお金で買えるか」という章があるんですけどね、私はそこで買えると言っています。それは、お金を人のために使ったら幸せになれるから、全部の幸せが買える訳ではないけど、買える幸せはあるって思っています。

岡本| それは、最近、私がよく言っている「利他のリターン」だと思います。こういう金銭以外の部分で豊かさ確保しておくことは重要なことですよ。少し確定拠出年金に話を戻しますが、加入した後、なにを買ったらよいのでしょうか。

大江| 私は自分の本の中では、確定拠出年金の合理的な配分方法は1つしかないと言っています。それは、世界のマーケット規模に合わせてグローバル分散投資をすることです。もう少し言うと、できるだけ期待リターンの高いものに分散投資することが原則になると思います。ですから国内外の株式を中心にしたバランスファンドを持っておくのが一番無難ではないでしょうか。確定拠出年金のバランスファンドは信託報酬がそれほど高くないのでそれも良い点ですね。

岡本| バランスファンドというのは、4資産がバランスされているファンドのことですか？

大江| そうです。4資産のそれぞれの割合が25%ずつだったり、株式の比率が多くなっていたりするものもありますね。例えば、セゾンバンガード・グローバルバランスファンドや世界経済インデックスファンドなどが有名ですね。世界経済インデックスは、GDP比率で分散されていますから、これを一本買って置いて、後は深く考えなくてもよいかと思います。また、今は債券に投資することはあまり考えなくてよいと思っています。

岡本| 将来的に投資に慣れてきたら、その時に色々やってみてもよいけど、最初の土台を作るという意味では、グローバルな株式インデックスファンドで積み立てていきましょうということですね。私もその点は100パーセント合意します。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

それで、次の問題は どうやって続けるということだと思いますが、これについてアドバイスはありますか？

大江| 確定拠出年金は、休止することができるんですが、休止は絶対にしてはいけませんね。資産形成は長期に継続しておこなうことが大切だからです。ただ、金額の変更はできるので、スタートの段階から頑張って目一杯やらない方がよいですね。若い人達に言いたい事として、老後のお金と子供の教育資金はトレードオフの関係だということです。あんまり老後に傾き過ぎると不都合が出る場合もあるので気を付けて欲しいです。個人型確定拠出年金であれば毎月 5,000 円からできるので、満額やらなくてもその時の生活に合わせて徐々にやっていくのが良いと思います。確定拠出年金は 60 歳まで下ろせませんから、無理をせずに続けてほしいです。



岡本| なるほど。でも、確定拠出年金制度の 60 歳まで下ろせないのが嫌だという人達もいるようです。本当はこれをメリットとして感じられる人がどんどんと増えていくことが大事ですね。

大江| 私はそんな方に向けて「みなさん、60 歳まで引き出せないのがデメリットだと言っていますが、私たちは 60 歳まで引き出せないものを一杯持っていますよ。公的年金や会社の退職金もそうですよね。どうしてそうなっているかという、渡したらみんな使っちゃうからなんです」と言っています。確定拠出年金も同じです。途中で下ろせないようになっているから、有利な税制になっているんです。こういう原理、原則って話せば分かると思うので、運営管理機関の投資教育でも、もっとしっかり伝えてほしいと思っています。

岡本| なるほど。私は根底には、個人が危機感をあまり持っていないことだったり、最終的には「何とかなるんじゃないか」と思っている気持ちがあったりするのかなと感じています。そういう意味で一番良いのは、首相が国民に対して「国が皆さんの退職後の面倒を全面的に見る時代は終わっています。これからは、自分の将来はいまの自分が支えることができるように、若い時から考えてほしい」と言うことだと思います。こうなったのは政府が悪いわけ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ではない。日本という国の経済が成熟して、人口も増えなくなったという構造変化が起きた結果なんですよ。ですから、それに対応して考え方を考えて欲しいというのを明確に伝えることは、政府の義務ではないかと思っています。不安感を煽る必要はないけど、自分で考えなくてはいけないと、国民一人一人に分かるように伝えていくことが、投資教育の前に必要だと感じています。

大江| それに加えて思っていることが、預金者保護と投資家保護って言葉がありますけど、この2つは全く性質の違うものだという事です。預金者保護は預金者にとって金融機関の経営の健全性ということは分かりようがないから存在しているものなんです。投資の場合はそうではなくて、投資の最終判断は全て投資家がするのだから、それに相応しい情報開示がされなくてはならないということが投資家保護なんですよ。そうすると、粉飾決算とかインサイダーは、この類いの犯罪の中で一番悪いことだと思いますね。この2つは終身刑に値するくらいでもよいと思いますよ。

岡本| そうですね。本当にこれらの罪に対して甘いですよ。特にアメリカに比べると遥かに甘い。スケープ・ゴートではありませんが、「粉飾などしたらあんなひどい目に遭うのか」というぐらい厳しい処分が必要です。ある意味、国民全体の将来の生活にダメージを与えかねない罪なのですから。

大江| 株式が胡散臭いと思われている最大の理由は、なんかイカサマが行われているんじゃないかと思われていることなんだと思いますよ。

岡本| この辺りについて、行政として悪事は絶対に許さないぞというのが、国民に伝わってくれば、投資も比較的安心できるものかなと思うようになって貰えるんでしょうね。政治には「投資家を欺くような行為は許さない」というのと、「老後の自分の生活は自分で面倒をみる」という二つの強いメッセージを期待しますね。政策としては色々出てきているんですけどね、まだそれにベースになる部分が足りていないというか、メッセージが国の意図と国民の意識の間で繋がっていない感じがありますね。

大江| 今回の個人型確定拠出年金の拡大について、マスコミに期待しているんです。一部のFPは、専業主婦にとっては何の意味もないなんてことを言っていますが、全くそんなことはなくて、確かに収入はあっても所得になっていないから所得控除にはなりませんけど、運用益が非課税なのはメリットだし、30年間積み立てたら1500万円まで受けとる時に税金が掛からないという控除もあるわけで、何の意味もない事はないんです。ですから、専業主婦の人達にも使って欲しい制度です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

主婦がパートなんかをする目的として、家計の足りない部分を補うことと、自分の欲しいものや旅行のためにしているという2つがあると思うんですが、これに老後資金のためというのも考えに入れてほしいなと思います。例えば、毎月の8万円のパート収入のうち、23,000円を毎月積み立てて30年続けて積み立て総額を年率2%複利で運用できたとしたら1,200万円くらいになるんですね。夫が退職した時に退職金とは別に1,200万円あれば、ものすごく大きいと思うんですよね。こういった事をマスコミでもっと話をしたらきっとブームになって加入する人が増えると思うんですよね。

岡本| マスコミも消費者もですが、今は非常に短期的な思考になっていますよね。目先の事ばかり考えていて30年後の事まで考えない、そんな傾向を感じますが、ではそれで何にもしなくてよいのかというと、そんなことはないんですよね。

「時は金なり」という言葉には2つの意味があります。ひとつは複利の効果でお金を増やすという意味ですね。もうひとつはグズグズ考えているとお金を失うという意味です。そこから考えると、投資については、速く決めること。決めたら今度は時間を掛けて資産を大きく増やす。「時は金なり」の2つの意味、両方を満たす考えでやってほしいんですけどね。

大江| 今度、トランプさんが大統領になることになって、結構、厳しいことになるんだろうなという気はしています。でも、それはそこまで危機に陥らないと日本人は変わらないという部分があるので、実は結構、楽観的に見ているんですよね。

岡本| 大変だけでも必要なことなのでしょう。トランプ・ショックはいろんなところで起きると思います。国防の問題もそうですね。先送りにしていた問題に直面して、いままで曖昧でゴチャゴチャになっていた事が、ビジネスライクに突きつけられることになるんでしょうね。

大江| 日本もどうしていくか、コストのことなどをもっとビジネスライクに考えたらよいと思いますよ。

岡本| 色々と変革していくのは良いことだと思いますよ。いままでポーっとしていましたからね。これも良いきっかけになると思っています。本日は色々ありがとうございました。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

I-OWA マンスリー・セミナー講演より

PE(プライベートエクイティ)投資、日本と経済と私

講演: 川本 明氏

レポーター: 赤堀 薫里

川本 明氏

アスパラントグループ シニアパートナー。慶應義塾大学経済学部特任教授。フューチャー株式会社取締役。東京大学法学部卒、通商産業省入省。英オックスフォード大学修士号取得。OECD 事務局、通商調査室長(通商白書 2000)、内閣参事官、経済産業政策局、企業再生支援機構専務執行役員などを経て現職。

経済産業省で30年間勤務した私の官僚論のポイントとしては、日本には伝統的官僚像というものがあるということです。ある意味「官僚たちの夏」モデルがあり、日本が戦後経済から成長していく過程で、頼りない政治家に対して、「官僚こそがまさに国家プランナーとして日本を率いていくのだ」という気骨のある考え方でやってきました。しかし、それは古いモデルになってきている気がします。プロとして専門的な知見を高めて、政治をある意味、国民の声を体現している最終的な責任者となるのは政治家です。政治家をプロとしてどうアドバイスし、サポートしていくのか、そこが官僚の現代的な役割でないのか。そこに徹していくべきではないのかというのが、今なお、私が持っている問題意識です。残念ながら民主党政権への政権交代から自民党、公明党への復帰と政治が大きく変動しました。霞が関の官僚の姿勢というもの、民主党政権ができる前までは、現代的官僚像に向かって動いたのが、その後、曖昧になり、伝統的な官僚像とのせめぎあいになっています。

2012年に長年の友人と、私が最後にいた日本航空を支援した官民ファンドの企業再生支援機構の仲間とアスパラントグループというプライベートエクイティファンド運営会社を設立しました。一言でファンドと言ってもいろいろな投資対象があります。大きく分けて誰でも購入でき、アクセスできる透明な仕組みとしては上場株式の取引があります。取引所があり、価格が常に開示され分析もなされている。





長期投資仲間通信「インベストラيف」

その中にも投資スタイルは様々あります。短期的にトレードするタイプ、アクティビストとしてかなりのシェアを投資して経営陣に対して意見をやるタイプ、バフェットさんのように優良企業に投資をして長期にわたり保有して毎年上がってくるであろう収益からリターンを得るバリュー投資のタイプなどいくつかもあります。私たちのプライベートエクイティは、パブリックではなくプライベートなエクイティ、つまり非上場な会社に投資をします。時にはバイアウトファンドとも呼ばれています。

投資対象は売り上げが50億円～数100億円位の中堅の企業です。大きなファンドであれば、もっと大きな規模の企業が投資対象になります。これは2兆円規模ですがRJRナビスコはバイアウトファンドが世の中で有名になった一例です。上場を廃止してファンドが全株を買い取り、大きな上場会社そのものをプライベートにしてしまった。

また、パナソニックが持っていたヘルスケアの事業部門をKKRというファンドが買い取りました。上場企業のある事業部門をプライベートにしてしまう。つまり、ファンドがその事業部門の経営を行うわけです。

ベンチャーキャピタルもプライベートエクイティに含まれます。プライベートエクイティは非常に専門的な分野です。ベンチャーキャピタルは、企業としてまだ収益を上げている段階ではない企業に投資をする。技術やビジネスモデルが上手く行くだらうというところに投資をするので手法も投資対象も異なっていますが、プライベートエクイティの同じカテゴリーに入ります。

講演前半では、レーガン大統領とトランプさんを比較しながら類似点と相違点の解説、また、今後のトランプ政権への憂いをお話いただきました。後半では、アスパラントグループの概要をご紹介いただきました。

そして最後に、「PEのファンドが経済の中で役割を拡大していくことが、日本経済にとって重要である。一つは年金などの資産運用のポートフォリオの一部として投資することも検討すべきだと思う。非上場の会社の業績をよくすることで上がる投資収益も年金資産のリターンの一つになる。また、日本は他の国と比較してPEファンドの存在感が小さいけれど、逆に潜在的な投資機会があるとも言える。そして今、事業承継は非常に社会的にも大きな課題となっている。日本経済の中でもそのような課題に向けてお金や人を動かしていく重要なツールになっているのではないかと結ばれました。



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より

日本にとってPE(プライベート・エクイティ)の拡大が必要な理由

座談会：川本 明氏、参加者のみなさま

レポーター：赤堀 薫里

参加者 | PE(プライベートエクイティ)が投資先を決めるにあたって企業の見つけ方ですね。紹介や持ち込みもあるでしょうけど、どうやって決定していますか。

川本 | これはまさに我々の生命線ですが、3つのグループがあります。一つは私達に投資いただいている金融機関さんのクライアントさんをご紹介いただく。二つ目は仲介を業とされているM&Aセンターのような業者さんですね。規模は大小様々ですが、仲介をされる会社が増えています。三つ目は川本ルートです。私の経済産業省時代の先輩や後輩が色々な大企業に行っていますので、経済産業省時代のネットワークですね。



参加者 | 先ほど、銀行さんからの紹介とありましたが、メガバンクや大手証券はグループの中に、自前でPEの会社を作っていますよね。私が元いた会社にもありましたが、今いち、存在意義がよくわかりません。

川本 | 我々は、大きな銀行さんからみると小さめな会社が投資対象になっていますし、得意としています。いろいろなファンドがありますが、それぞれ相性があります。系列の方が良い場合と悪い場合があるのではないかと思います。ケースバイケースでいろいろなファンドを使われるのだと思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

参加者 | 現場に入られた時に、従業員の方は、初めから協力的なのでしょうか。それともネガティブな場合もあるのでしょうか。

川本 | オープンにネガティブなケースは今までありませんが、非常に警戒されています。創業者なり、株主とは出資に先立って1~2年、会話をしますが、従業員の方とは我々が投資をしてからのコンタクトですので、最初は疑心暗鬼。最初に「100日プラン」と言って「我々の行動規範はこうです。ぜひ一緒にこういうことをやっていきたいと思います」と提案します。目標は、現場を巻き込んで一緒に作っていくことです。三浦印刷の場合は3年経ちますので、だいぶそれが定着してきています。

参加者 | 銀行からの紹介が多いということですが、そもそも銀行は、自分の業務として、融資先の経営を改善していくと思います。銀行が自分でやる場合と、できなくてファンドが入る場合と何がどう違ってくるのでしょうか。

川本 | 我々自身もいつも考えながらやってきています。銀行と貸出先との関係としては、銀行は貸出先が非常に多いため、数字で管理しているという事を銀行の方からよく聞きます。我々は50%以上の持主として入るので、管理の度合いが違う。融資と投資という立場も違う。銀行の関与の仕方で見ると、会社そのものの中で変えるということは、それはそれで大きなリスクです。例えば、人事でいまの社長が後継者に社長職を譲った方がいいと心の中で思っているけどどこまでそれを言えるのか。

参加者 | そこまではなかなか踏み込めない。

川本 | 恐らく例外もあるでしょうが、立場としては、なかなかそこまではいかない。我々は、現場と協力していかないと上手くいかないわけです。しかし、そこで責任を持っている立場上、一緒にやってみて、どうしても社長が高齢で退任された方がいい場合は、退任されることまで踏み込まざるを得ないですね。

岡本 | 銀行の場合は、債権を如何に回収するかということに中心があるけれど、PEの場合は、あくまでも株主として企業価値を増やしていくのかということですから。それは非常に大きな違いですね。

川本 | 利益は、まずは苦勞してきた従業員さんにボーナスの形で取っていただく。それで残りがあれば回収するので時間がかかりますね。投資して1~2年でということにはなりません。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 | 投資先を決める時は、その中でのポートフォリオを考えられますか？例えば業種の分散をどうするかとか。

川本 | 多少考えます。今まで 300 件位見てきて 6 企業に投資していますが、業種も業績もまちまちです。来年が何処に投資しているのか全く想像できません。投資といっても、株主から信頼を得ないと株を譲ってもらえませんからね。今までの経緯を見ると、通常、創業者をはじめ株主の方と 1~2 年はコミュニケーションを図ります。途中で「やっぱり止めておく」と言われるケースもあります。

岡本 | あくまでもパートナーになるということですからね。

川本 | そう思っていたかかないと。単なる金融資産としての株の移動ではなく、そこにいろいろなものがくっついています。それを我々が一緒にお引き取りする。

参加者 | ここ数年 PE をやり始めて、日本経済が抱えている病巣というか日本の遅れている所はどう感じましたか？

川本 | 日本の企業の中で、少しやり方を変えることで効率を上げて利益を上げられる会社が沢山あるのではないかと感じています。今は儲かっていますが、70 歳位になってくると、今までやってきたことに対して守りに徹してしまう。我々から見て「素晴らしいビジネスモデルなのにどうして全国展開しないのですか？」というような例があります。我々が新しい人を入れることで、既に儲かっているモデルが全国展開して、3~4 倍になるというチャンスがけっこうあるのではないかと思います。

岡本 | 今日、江戸時代の豪商の話は私にはしましたが、彼らにとっては如何にビジネスをつなげていくかということに重点がおかれ、養子制度等で、良い人材を見つけることが大事になっていました。つまり、のれんをいかに絶やさないかがポイントです。それが最初の課題として来ているわけですよ。事業承継の場合は、いかに企業が途切れないかを考えている。財産も含めてね。そこに考え方として大きな違いがあるように思います。もったいない気がします。のれんを続けていく一つの過程として PE というものの存在があるのかもれませんね。

参加者 | これからは、生命保険や年金からお金を出資してほしいと言っていましたが、そういったところの関心の程度はどうでしょうか？

川本 | 日夜問い続けています。最初に出資してくれたのは金融機関さんです。そのクライアントさんのヘルプにもなればということで、いわば戦略的投資家ですね。純粋にリターンだけ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

を狙う投資家ではないわけです。年金や機関投資家さんはまさにリターンをどう求めるかというプロです。我々は金融商品としては若いので「トラックレコードがない。判断しづらい」と言われます。

参加者 | 例えば年金とか、日本の経済のためになるものに投資するというのは非常に合理的ですよね。そのような考え方は浸透していないのですかね？

川本 | そういう考え方の方もいらっしゃいます。これからお金をもらう方たちに大変失礼なことですが、日本の機関投資家の方も、PE やオルタナティブのようなリスクが高く、非常に判断の難しいものに対して保守的というか、トラックレコードがないものに対しては辞退されてしまう。ある専門家は、「それは投資家としてちゃんと判断していないでしょ？」と言っていますけどね。むしろ、我々の1号ファンドのような若いファンドの方がリターンは高いというデータもあります。小さな企業の方がリターンの率は高い。しかし妙味があるということ言う人は少ない。PE をやっているファンドの多くは、外国のPE をやっていますね。規模も大きく間違いないのでしょうかね。

参加者 | 企業年金基金は日本の経済のためになんてあまり考えていません。企業年金基金がやるよりはむしろ、GPIF がやるべきだと思っています。GPIF が TOPIX 等のポジションを増やすのは大反対です。バイアウト、ベンチャー、エンジェル投資、つまりPE にもっと積極的にやってもらいたい。140兆円のうち、1兆円やれば、ガラッと世界が変わりますよね。1兆円くらい一時的に損失が出てても大きな問題ではないわけですよ。企業年金基金は傘下の従業員のお金を預かっているんで、保守的にならざるを得ないというのわかるし、金融機関は投資が失敗すれば自分の首が危ないですからね。国民全体の共通の資産であるGPIFの国民年金の積立金であるからこそ、できるのではないかなという気がするわけです。

川本 | 1兆円あったら様変わりしますね。世界で毎年50兆円ですからね。アメリカで一番PEを出しているのが大学です。ハーバード大学が1番。次がイエール大学です。

参加者 | 投資した会社の売却先はどういう所が見込めますか？

川本 | 事業会社です。我々が想像できないようなシナジー効果をみなさん考えていますね。ファンドが持つと、企業のみなさんはいずれ持ち主が変わるなど気づくわけです。いろいろな企業価値を色々な人が評価して、高い企業価値を判断してもらえますからいいですよ。

参加者 | ファンドに入れた瞬間に売りに出ていると周りを見るわけですか。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

川本 | 我々が投資したとニュースに出た瞬間に買いに来るケースもあります。

参加者 | そこで売ったりして(笑)。

川本 | それは絶対にやりません。

岡本 | 今日はどうもありがとうございました。PE への投資の拡大が日本にとって非常に重要であることがよくわかりました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



コックピット(cockpit)

「cockpit」とは元々「闘鶏場」の意味だ。cock は「おんどり」、pit は「囲い」を意味している。そこから小さな戦場や古戦場を意味するようになり、飛行機が本格的に使われるようになった第一次世界大戦中に「操縦席」を指すようになったのである。計器類がたくさん並んだ狭い中で作業する姿は「ばたばた」しているように見え、まるで闘鶏場を動き回る「おんどり」のようでもある。

今では飛行機だけでなく、ロケット、レーシングカー、カヌーなどの操縦席も「コックピット」という。

タイタニック号で生き残った日本人

1912 年 4 月に起きたタイタニック号の沈没事故後、ある英国人乗客が手記にこう記していた。「一人の日本人が他人を押しつけ、無理やり救命ボートに乗った」。タイタニック号に乗り合わせていた唯一の日本人・細野正文氏は、救命ボートに乗り込んで助かったものの、生涯「卑怯な生存者」という汚名をきせられた人物だ。

細野氏は 1912 年当時、日本鉄道院の主事を務めていた。ロシア、英国での研修を終え、英国から米国へ向かうタイタニック号に乗り合わせていたのだ。彼は帰国後、高官職を罷免され、鉄道事務員に降格。1939 年、世間の冷たい視線を浴びる中で他界する(享年 68)。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

しかし、1941年、事故にまつわる細野氏の手記が発見され、細野氏は批判されるような行動をとっていなかったことが判明、遺族が彼の名誉回復に向けた取り組みを始める。事故当時、細野氏が乗ったのは10号救命ボートで、無理やり乗り込んできたと言われた英国乗客の救命ボートは13号であった。実は当時10号救命ボートには2人分の空きがあり、ボートの順番を待っていた三等客室の乗客とともにその場にいた二等客室乗客の細野氏には優先権があったのだ。1997年、細野氏の手記は米国のタイタニック号研究財団の検証を経て事実と証明された。

事故で多くの方が命を落としたため、生きて帰った細野氏は、罪悪感もあったと思われるが、弁解しなかったのは彼の武士道精神と考えられている。

なお、ミュージシャン細野晴臣は細野正文氏の孫。晴臣はタイタニック沈没100年目となった2012年に事故犠牲者の共同墓地があるカナダのハリファックスを訪れ、追悼式典に参加している。



音位転換について

「新しい」は何と読むか？・・・「くだらないことを聞くな」と言われそうだが、では「新た」は？



実は「新しい」は奈良時代には「あらたしい」で読まれていたが、平安時代に「あたらしい」となった。このように、一語中の音の位置が変わってしまう現象を「音位転換」という。

ほかに「音位転換」が定着した言葉としては、山茶花(さんざか→さざんか)、舌鼓(したつづみ→したづつみ)、しだらない→だらしない、秋葉原(あきはばら→あきはばら、「秋葉山」のあった原の意味)などがある。

象牙の塔

「象牙の塔」は、19世紀フランスの作家で批評家のサント・ブーヴが、現実社会から離れて学術に没頭している学者を評して言った言葉。

日本では、研究熱心のあまり日露戦争が起きたことも知らなかった明治物理学の祖、長岡半太郎(湯川秀樹をノーベル賞候補に推薦したことで知られる、1950年没、享年85)が「象牙の塔」の代表的存在とされている。

現在では、現実とかけ離れた世界を皮肉る言葉として用いられているが、(個人的には)マスコミ受けする学者よりも偏屈な「象牙の塔」タイプの学者の方が好ましいと思う。





白眉

三国志の中の「蜀・馬良伝」によると、蜀の馬氏の五人兄弟は秀才揃いで、いずれも字(あざな)に「常」の字を用いていたことから「馬氏の五常」と呼ばれていた。中でも最もすぐれていた長男の馬良は、眉に白い毛が生えていたことから「馬氏の五常、白眉最も良し」と人々に言われていた。

ここから多くの中でもっとも際立って優れた人や物を「白眉」というようになったのである。なお、「泣いて馬謖を斬る」で有名な諸葛孔明の部下の馬謖は馬良の末弟である。

几帳面(の語源)

几帳面という言葉は室内でお姫さまなど貴人の座るそばに立て、間仕切りや風除けに用いられた家具「几帳」に由来する。「几(おしまずき)」は脇息の意。几の長い横木に「帳(とぼり)」をかけたものが「几帳」である。

几帳の柱は、怪我の予防と装飾の意味から、角を丸く削るという細工が施されていた。この面を作る作業がたいへんに難しかった。ここから「几帳面」が「きちんと」という意味に転じたのである。几帳面な人でないといけない厳しい仕事だったのだ。



中国がわかるシリーズ 36 南宋と金の講和

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

1129年、杭州(臨安)に遷都して、ようやく一息ついた南宋の皇帝、高宗は、宰相、秦檜とともに金との講和を目指しました。1135年に入ると、モンゴル系諸部族が(金の)北辺へ入寇し始め、金もそれほどの余裕がなくなってきたのです。1138年、両者の間で和議が成立し、宋は臣下の礼をとり、金に歳貢を送ることになりました。

主戦派の軍人、岳飛は、猛反対しましたが、1141年、秦檜は岳飛を謀殺し、1142年、再度、金と和議(歳貢、銀25万両と絹25万匹)を結びました。後に、儒教に民族的なイデオロギーを吹き込んだ朱子学によって、岳飛は救国の英雄となり、秦檜夫妻は、売国奴の代名詞となりました。(杭州の岳王廟には、今でも鎖で繋がれた秦檜夫妻の像が置かれています。岳王廟にお参りした人々は、帰路、秦檜夫妻の像に唾を吐きかけていくのです)。

当時の金と南宋の軍事力を冷静に比較すれば、秦檜には少し気の毒な気がしないでもありません。対外強硬論は常に世の喝采を浴びるものですが、現実には戦争で苦しむのは多数の民衆であって、指導者には、罵倒に耐える勇気もまた必要なのです。高宗にはそれがありません。

1159年、日本では、2つの騒乱(保元の乱、平治の乱)を勝ち抜いた平清盛が武士として初めて実権を握りました。東アジアの情勢をよく掴んでいた清盛は、大輪田泊(神戸港)を整備し、南宋(や高麗)との貿易に尽力して、莫大な富を蓄積しました(世界遺産の厳島神社にその名残が見られます)。それまで、博多や敦賀を基点として行われていた高麗や宋との民間交易は、清盛によって遣唐使以来、再び、国家ベースに引き上げられたのです。

日本と大陸(中国)との交易は、遣唐使の廃止により、民間ベースに切り替わりましたが、全く交易のサイズが落ち込むことはなく、古代を通じて一貫して拡大してきました。交易だけではなく、例えば、喫茶(粉茶)の習慣をわが国に伝えた栄西は、勉強のため2度も宋に渡っています(また、宋建築の新技术を摂取した栄西は、東大寺大仏殿の再建をも手がけました)。大陸と日本の間では、人の交流も途切れることなく続いていたのです。

<モデルポートフォリオ:2016年12月末の運用状況>

単位：%

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1か月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 204万円
4資産型	積極型	3.57	2.57	17.08	3.15	17.21	10.83	36.94	61.09	76.85
	成長型	2.57	1.86	13.03	3.22	12.24	7.07	26.43	45.42	62.72
	安定型	1.57	0.92	8.94	3.03	7.72	3.35	16.57	30.46	47.47
2資産型	積極型	4.02	3.95	17.15	3.91	19.34	11.27	34.97	63.21	88.38
	成長型	3.14	2.01	13.60	3.70	14.38	7.63	25.93	47.79	72.29
	安定型	2.26	-0.06	10.01	3.23	9.99	4.05	17.34	33.05	54.99

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2015年12月末に1万円投資資金を積み立て始め、2016年11月末の投資資金までとする(2016年12月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: Citi WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
成長型	25%	25%	25%	25%		
安定型	10%	10%	40%	40%		
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: Citi WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

4資産

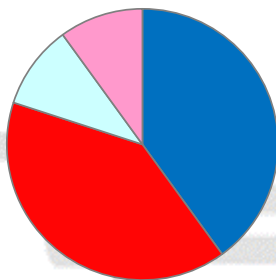
■ 国内株式:
TOPIX

■ 外国株式:
MSCI KOKUSAI

■ 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)

■ 外国債券:
Citi WGBI
(除く日本)

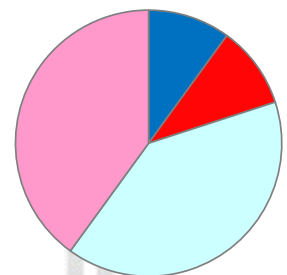
積極型



成長型



安定型

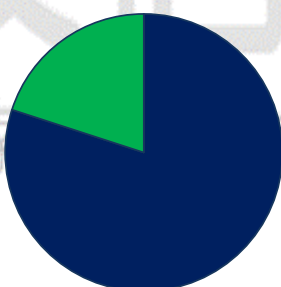


2資産型

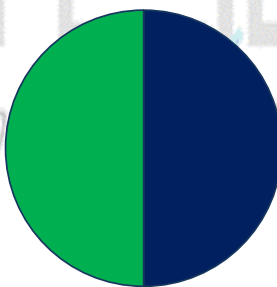
■ 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)

■ 世界債券:
Citi WGBI
(含む日本)

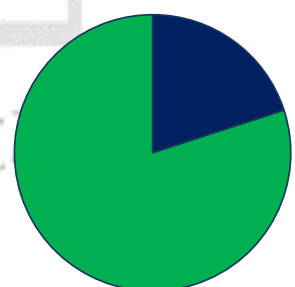
積極型



成長型



安定型



<純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2016年12月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信「インベストライフ」のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

今回順位	前回(16年9月末)順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の月末資産額				2016年12月末		イボットソン分類
				1ヵ月	1年	5年(年率)	10年(年率)		10年(年率)	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~204万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~204万円	純資産(億円)	
1	2	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	2.67	-0.71	17.13	0.75	20.72	8.47	37.43	52.52	52.98	13.02	82.46	183.02	312.07	3,424.7	19,414	国内株式・大型ブレンド型
2	1	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	3.82	7.20	-	-	-	14.13	-	-	-	13.70	-	-	-	3,418.3	11,231	外国株式・世界型
3	4	さわかみ	さわかみファンド	3.32	1.34	16.44	1.71	20.60	11.82	39.14	53.83	69.40	13.42	83.48	184.59	345.58	2,928.1	21,947	国内株式・大型ブレンド型
4	3	三菱UFJ国際	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド	3.54	-13.81	24.86	7.58	21.20	3.01	51.67	114.59	-	12.36	91.00	257.51	-	2,855.2	9,016	外国株式・世界型
5	5	日興AM	インデックスファンド225	4.51	1.81	19.25	2.30	21.83	13.28	44.00	67.60	74.13	13.59	86.40	201.12	355.23	2,283.3	5,237	国内株式・大型ブレンド型
6	11	野村AM	野村インド株投資	3.38	-3.05	16.43	2.98	35.06	5.18	32.95	43.42	-	12.62	79.77	172.10	-	1,956.7	20,432	外国株式・インド型
7	6	三井住友トラスト	コア投資戦略ファンド(成長型)《コアラップ(成長型)》	2.84	-0.73	-	-	-	3.97	-	-	-	12.48	-	-	-	1,947.7	12,041	アロケーション・やや積極型
8	8	三菱UFJ国際	三菱UFJ Jリートオープン(3ヵ月決算型)	3.61	2.64	21.35	3.84	22.54	-0.28	38.43	81.69	-	11.97	83.06	218.03	-	1,606.9	5,962	国内REIT
9	9	AM One	MHAM株式インデックスファンド225	4.49	1.69	19.19	2.20	21.76	13.22	43.69	66.96	72.88	13.59	86.21	200.35	352.68	1,563.8	3,516	国内株式・大型ブレンド型
10	10	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3.82	7.21	-	-	-	14.13	-	-	-	13.70	-	-	-	1,532.9	11,232	外国株式・世界型
11	12	野村AM	日本企業価値向上ファンド(限定追加型)	3.83	-3.63	-	-	-	8.94	-	-	-	13.07	-	-	-	1,521.9	9,956	国内株式・大型ブレンド型
12	7	AM One	日経225ノーロードオープン	4.45	1.48	18.73	1.88	21.76	13.07	42.23	63.90	68.09	13.57	85.34	196.68	342.91	1,515.8	12,990	国内株式・大型ブレンド型
13	15	AM One	グローバル・アロケーション・オープンBコース(年4回決算・為替ヘッジなし)	4.79	-1.10	-	-	-	9.11	-	-	-	13.09	-	-	-	1,353.2	9,700	アロケーション・TAA型
14	13	三井住友AM	日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	4.93	-1.08	-	-	-	9.22	-	-	-	13.11	-	-	-	1,343.6	11,281	アロケーション・標準型
15	17	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	4.19	0.49	13.05	-	-	7.33	24.43	-	-	12.88	74.66	-	-	1,283.5	13,318	アロケーション・やや積極型
16	14	三井住友トラスト	コア投資戦略ファンド(安定型)《コアラップ(安定型)》	1.77	-1.06	-	-	-	1.69	-	-	-	12.20	-	-	-	1,283.3	10,893	アロケーション・標準型
17	20	野村AM	野村日本企業価値向上オープン(米ドル投資型)	7.12	-7.25	-	-	-	16.82	-	-	-	14.02	-	-	-	1,219.3	9,054	国内株式・その他
18	19	三菱UFJ国際	トレンド・アロケーション・オープン	1.33	0.36	-	-	-	0.65	-	-	-	12.08	-	-	-	1,132.7	11,525	アロケーション・TAA型
19	18	ニッセイAM	ニッセイ日経225インデックスファンド	4.53	2.09	19.50	2.52	21.86	13.43	44.91	69.57	-	13.61	86.94	203.49	-	1,112.8	20,775	国内株式・大型ブレンド型
20	16	ニッセイAM	ニッセイJPX日経400アクティブファンド	1.42	-5.40	-	-	-	5.34	-	-	-	12.64	-	-	-	1,080.7	9,954	国内株式・中小型成長型

対象は追加型株式投資信託のうち2016年12月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF、DC・SMAなど専用投資信託を除く)。積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合には2015年12月末に1万円で積み立てを開始し、2016年11月末投資分までの2016年12月末における運用成果とする(2016年12月の積み立て額は入れない)。出所:MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 感謝、感謝の70年、そして、お礼奉公のこれから

講演：岡本 和久

私は2016年12月14日で70歳となりました。昔なら「古来、稀なり」ということなのでしょうが、あまり実感はありません。ただ、振り返ってみれば本当にたくさんの方々のおかげで今日がある。最近、思うのです。自分っていったい何だろうって。いま、思うのは自分とは、自分以外のすべての存在そのものなのだろうと思っています。

たまたま、本多静六先生の人生計画総括表と出会いました。これは本多先生が25歳の時に立てた計画だそうです。20代でこのような計画を立ててその通りに生きるとはすごい一言です。

本多静六先生の人生計画総括表

期名	年齢	目標	実生活
第一：教練期 少年期(教養) 青年期(錬成)	6~20 6~15 16~20	人間らしく働くための準備	三節：食、性、眠の三欲を制す
第二：勤労期 少壮期(働き盛り) 中壮期(分別盛り) 大壮期(知能盛り)	21~65 21~35 36~50 51~65	身のため、国のため働き、名利を蓄積する	三多：多学、多働、多施
第三：奉仕期 初老期(お礼奉公時代、感謝時代)	66~85	名利に超越して世のため、人のために働く	四慎：慢心、贅沢、怠惰、名利を慎む
第四：楽老期 中老期(指南時代) 大老期(無為化時代)	86~ 86~105 106~	勤学併進努力 道楽の晩年を楽しむ	四快：快働、快食、快眠、快通

新人生訓と人生計画表（1949年刊 大日本山林会・帝国森林会に掲載されたもので、本多先生が25歳の時に立て、この通りの人生を実践した。平成28年度企画展 本多静六生誕150年展資料より）

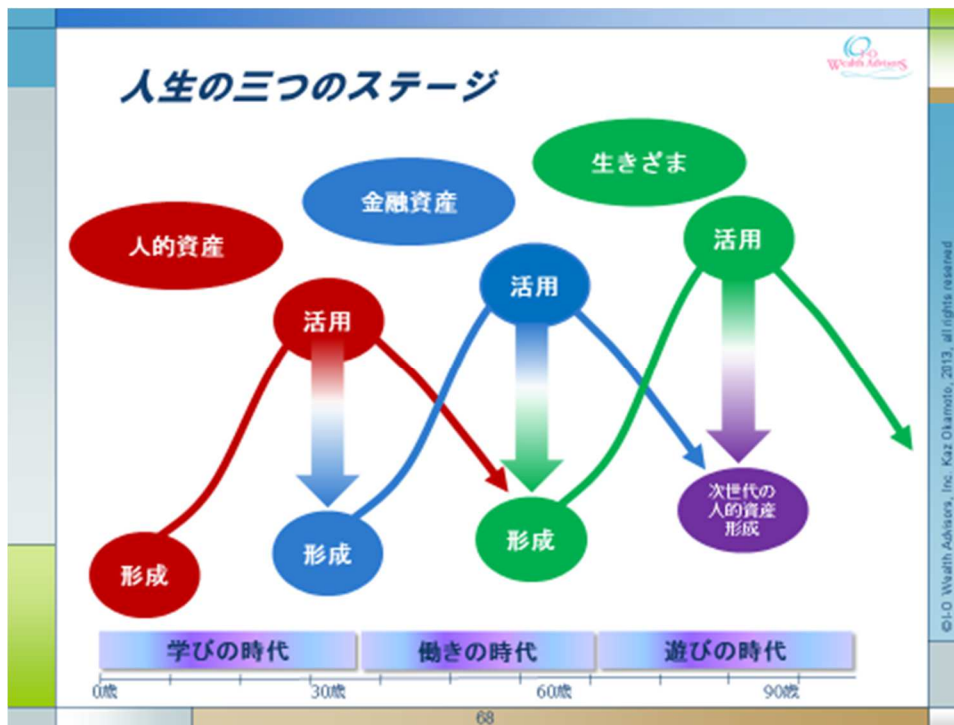
© I-O Wealth Advisors, Inc. Kaz Okamoto, 2013. all rights reserved

私自身、これまで人生には三つのステージがあるとみなさんにお話してきました。学びの時代、働きの時代、遊びの時代です。私は現在、「遊びの時代」にいる訳ですが、私の言う遊びの意味は観世音菩薩の遊びです。観音経の一節に「観世音菩薩は、いかにしてこの娑婆世界に遊ぶや いか



長期投資仲間通信「インベストライフ」

にして衆生のために法を説くや」とあります。とてもそこまでは行けそうにありませんが、やはり今まで自分が学び体験してきたことを世のため、人のために役立てたいと思っています。本多先生が66歳から85歳を奉仕期(お礼奉公時代、感謝時代)と位置付けておられるのを知って「我が意を得たり」という気持ちでした。



2012年に胃がんが見つかり胃の三分の二を摘出しました。若干、転移があったため、その後、3年間、抗がん剤治療を続けました。2015年の秋ようやくそれが終わったのですが、2016年の春先から体調がすぐれず、神経内科の診断を受けたところ重症筋無力症という難病であることがわかりました。現在も薬で治療を続けています。おかげさまでようやく体調も戻りつつあることを実感できるようになりました。この二つの病のおかげで色々と学ばせてもらえました。

人間、必ず死にます。その点について不確実性はありません。ですから、死はリスクではないのです。また、いま、この瞬間、生きている。これも確かです。リスクはこの「生きている」という状態がどれだけ続くかという点にあります。しかし、これはコントロールできないことです。

私の好きなこんな言葉があります。これは資産運用にも通じる知恵です。
「神よ、私を変えることのできないことを受け入れる冷静さを、変えることのできることを変える勇気を、そして、それらの違いを判断できる知恵を与えたまえ」 (ラインホルド・ニーバー)



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

要するにいま、できる最善のことをやり続けていくことが良い生き方に通じる唯一の道なのだと思います。遊びの時代、お礼奉公の時代、私は次の三つを基本として生きていきたいと思っています。

まず、**プロ・エイジングな生き方**をしたいということです。人間は生まれてから死ぬまでが進化のプロセスです。アンチ・エイジングとよく言いますが、これは進化に逆行するむなしい努力です。エイジングを受け入れる生き方こそ進化に沿った生き方だと思うのです。ただ、働きの時代と遊びの時代では進化によりでてくる力の種類が変わります。働きの時代の力は行動力です。私は遊びの時代の力を「存在力」と呼んでいます。つまり、何もしないで、存在するだけで、周りに良い影響を与える、そんな力をつけていくのが遊びの時代です。私はこれから行動を減らしていきたいと思っています。その分、その行動に込める想いを濃くしていきたい。「行動は半分に、行動に込める想いは四倍に」というわけです。

二番目の基本はすでに述べた**お礼奉公**です。少しでも世の中の役に立つことをしていきたい、人々を笑顔にしていきたい、そして、後世のためになることをしていきたいと思っています。そのような活動の第一歩として二つのことを始めました。まず、明治大学に寄付を行い、商学部の三和裕美子教授に代表となっていていただき株価指数研究所を設立させていただきました。設立の趣旨の一部をご紹介します。

設立の趣旨

- 本研究の目的は、わが国株式市場創設時からの連続した株価指標について研究し、歴史的に統一した株価指数をつくることである。
- 株価指数はその国の経済の状況を表すものであり、資本主義の発展と密接に関係する。しかし、明治時代から存在するわが国株式市場は、ニューヨーク、ロンドンに並ぶ時価総額を誇っているにも関わらず、連続した株価指数が存在しない。
- このことは株式市場にとっても、日本経済の歴史においても問題である。そこでわが国の株式市場、ひいては資本主義の発展段階を示す指標として連続した株価指数をつくることは重要な課題であると考えます。(以下略)

日本には1878年から株式市場での取引が行われています。しかし、本当に残念なことにデータがきちんと整備されているとは言えません。いま、歴史的なデータを収集しておかないと益々、それが困難になります。数年かかる作業になると思いますが、すでに明治大学内にすでに研究室もでき、学生さんのアルバイトをお願いして古い資料からのデータ集めが始まっています。板谷敏彦さん、平山賢一さん、山口勝業さんなどもプロジェクトにブレインとして参加していただいています。これは私が大変、お世話になってきた証券市場への恩返しです。



もうひとつの社会貢献活動は「超越瞑想普及を支援する会」の設立です。私も妻も瞑想を20年以上続けていますが、特に超越瞑想と出会って、それを実践してきたことは人生の上で非常に大きな意義を持つものでした。証券市場、資産運用というストレスの多い環境のなかで何とかやることができたのも瞑想のおかげが大きいと思っています。超越瞑想は宗教とは全く関係のない心を扱う技術です。そして、定期的に瞑想を続けることで静寂さが心に染みわたり、いつも落ち着いた活動ができるようになりますと言います。私もある程度ですがそれは実感します。そして、とても素晴らしいことにこの瞑想を実践する人が人口の1パーセントを超えるとその町の犯罪率が明らかに減少すると言います。世界の多くの人が正しい瞑想をしてくれることは世界平和への道でもあります。

今回設立した会では超越瞑想を学ぶための受講料を奨学金として出そうというものです。金利も返済も不要です。これは妻と私を支えてきてくれた超越瞑想へのご恩返しです。詳細は以下のホームページをご覧ください。





<http://tmersupport.wixsite.com/home>

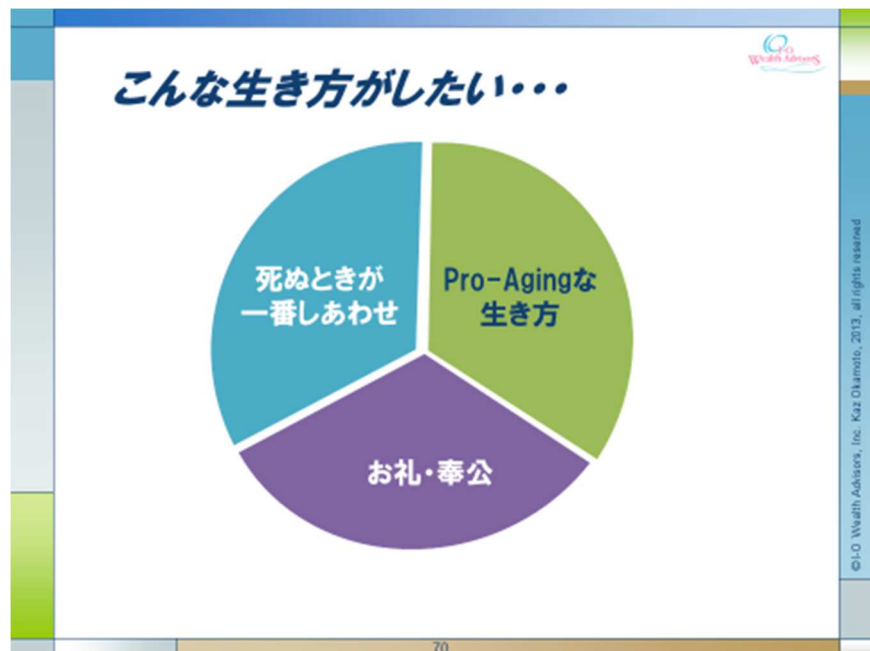
超越瞑想普及を支援する会 (TMer Support Association)

超越瞑想(TM)普及を支援する会(TMer Support Association - TMSA)は超越瞑想を初めて学ぼうとする方に受講料の一部を奨学金として提供し超越瞑想の普及を支援しようという目的で設立された任意団体です。

超越瞑想(TM)についてはこちらのサイトをご覧ください。⇒ [超越瞑想について](#)

Home News & Information 手続き 主催者プロフィール 規約

さて、三番目の行動の基本は「しあわせ持ちの死に方」というものです。毎日、毎月、毎年、いつもすべてのものに「ありがとう」、「ありがとう」と感謝を続ける。みんな、背中に「しあわせ袋」を背負っているのです。そして、毎日、毎月、毎年、背中の袋に「今日もしあわせだったな、ありがとう」という気持ちを入れています。まさにしあわせの積立投資です。これをずっと続けていけば死ぬとき、袋が人生で一番満ちているはずです。つまり、死ぬときが一番しあわせなのです。そんな死に方をしたい、それが夢です。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

私が生まれたのは1946年、太平洋戦争が終わった翌年です。まだ、終戦の傷跡がいたる所にありました。私の生家も1945年5月の山の手を空襲されたとき火事になり、父がようやく消火したことを日記に残していました。私の誕生後も台所には焼け跡がまだ残っていました。中学2年の時に転校してこられた英語の先生に私は非常に大きな影響を受けました。英語部も作り放課後、先生を呼んで勉強会をしていました。

その先生が私たちの卒業前、最後の英語の授業のときに黒板いっぱい「Be a Peace Maker!」と書いたのです。これが君たちに伝えたいことだとおっしゃっていました。「平和をつくる人になれ!」というのです。

高校を卒業して入学した大学をすぐ休学しアメリカのコロンビア大学に留学しました。すばらしいキャンパスでしたが雰囲気は何か殺伐としていました。1965年から67年でした。ベトナム戦争がどんどん激化しつつある時期でした。ルームメートが18歳の誕生日を迎えたので「おめでとう」と言ったら「いや、おめでたくなんかないよ。これから徴兵局へ行き、徴兵登録をしなければならないんだ」と言っていました。当時は国民(男性)皆兵制だったのです。いつベトナムに行かされるかわからない、そんな環境のなかで彼らは勉強をしていたのです。その悲痛な叫びがボブ・ディランなどの反戦歌だったのです。毎日のようにTeach-inという集会が開かれベトナム戦争反対派と賛成派が争っていました。

日本に帰ってきたらなんと明るい雰囲気なのでしょう。高度成長が続き日本もどんどん自信を深めていました。反戦歌がかっこいいはやり歌として歌われていました。本当に平和ってありがたいなあと思いつつ、同時にコロンビアの友人たちはどうなったのだろうと考えたものです。その後も私はずっとグローバルな環境のなかで仕事を続けることができました。

私が天から与えられた人生のミッションは海外と日本の間の知識の輸出入をすることだと占星学の先生に言われたことがあります。証券市場では海外の進んだ証券分析や年金運用の手法を日本に輸入しました。いま、和風の企業経営哲学や和風資産運用を海外に広めたいと思っています。ともかく、やはりすべての基本に世界が平和であることがあるのだろうと思います。

中学の最後に英語の先生が黒板いっぱい書いた「Be a Peace Maker!」という言葉はずっと私の心のなかで鳴り響いていました。自分のしてきた仕事が本当に世界の平和に役立ってきたのだろうかと考えていました。結局、気づいたのです。本当に将来の年金受益者のためになる良い運用をすればその人たちの退職後の経済的束縛を軽減してあげることができる。その人たちが笑顔になれる。それが世界平和への小さな一歩なのではないかと気づいたのです。

世界を平和にするのは別に外交官にならなくても、国連に勤めなくてもよい。まず、自分にご縁のある人たちを少しでも笑顔にしてあげればよい。そう思い到りました。瞑想を多くの人ができるよう



長期投資仲間通信「インベストライフ」

にしてあげるのもその一環です。日本の証券市場の研究がさらに深まり日本の資産運用がもっと高度化するのもその一歩でしょう。そのような想いで残りの人生を生きていきたいと思っています。

Be a peace maker!
世界のどこかに悩む人、苦しむ人がいる
未来の子孫たちの苦しみの原因が
いま、発生しているかもしれない
その人たちの感情を「我が事感」をもって感じられるか
意識の時空を広げよう
意識の広がり、それがその人の品格となる
みんなが笑顔になれるように
自分が何をできるか考えてみよう
そして、行動しよう
結局、良い世の中を創るのは我々生活者なのだから
まわりに笑顔を増やすことが世界の平和につながるの
だから
我々は世界をより良くすることができるのだから

©I-O Wealth Advisors, Inc. Kaz Okamoto, 2013, all rights reserved.



長期投資仲間通信「インベストライフ」

私のこれまでの70年とこれからの想いを6分の動画(You tube)にまとめました。よろしければご覧ください。

70 Years (+alpha) in 6 minutes



https://youtu.be/bou0phYFX_Q

このYoutubeは上記URLを知っている人のみが見る事のできる「限定公開」に設定されています。

